説教20200906フィリピ４：１５‐２０ 　２６６　　Ⅱ２２６　　１２４

説教「豊かさとは」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちのうちにもおのぞみ下さい。

今日は敬老感謝の主日として、こうして御前に集められ、私たちが共に主なる神を礼拝して賛美出来ますことを、本当にうれしく思います。この世の旅路の長い年月を主なる神は恵みのうちに守り導いてこられました。なぜ私たちには守りがいるのでしょう。それはこの世が荒れ野だからです。荒れ野の中を集められ一群となって歩んでいる私たちは、恐ろしい事、美しい事、厳しい事、すべてのことを、主なる神からの恵みとして受け取って、ただひたすらにその救いの道を歩まされています。この世は荒れ野、それは何と素晴らしいことでしょうか、そこでの暮らしの中で私たちは、日々豊かにされます。その豊かさで私たちは、他人に対する深い思いやりの心を育み、汝の敵を愛する心を育み、そして、語る言葉の実りがもたらされ、愛に満ちた行いを成すように導かれて行きます。この道行きは主なるイエスキリスト様と共にあることそのものです。

今日の招きの言葉で読まれましたイザヤ書５７章はイエスキリスト様のことが書かれています。「神に従ったあの人は失われたが誰一人心にかけなかった」と歌われる、あの人とは十字架上で死なれたイエス様のことを指しているでしょう。そして、誰一人心にかけなかったというのは、私たち人間のありのままの姿です。

「神の慈しみに生きる人々が取り去られても／気づく者はない。神に従ったあの人は、さいなまれて取り去られた。」「しかし、平和が訪れる。真実に歩む人は横たわって憩う。」何という成り行きでしょうか、平和が訪れ、真実に歩む人は横たわって憩うのはイエス様だけでしょうか。そうではありません、イエス様を信じて、この世の荒れ野を共につき従ってきた一人一人が、イエス様と同様に、横たわって憩うのです。主なる神は全ての人たちがイエス様のように救われることを切実に願っておられます。５７章１０節からお読みしますと、その主なる神の心情がありありとみて取れるでしょう。

お前は長い道のりに疲れても／もうだめだとは言わず／手の力を回復し、弱ることはなかった。誰におびえ、誰を恐れて、お前は欺くのか。お前はわたしを心に留めず／心にかけることもしなかった。わたしがとこしえに沈黙していると思って／わたしを畏れないのか。

わたしが述べてみよう、お前の言い分／お前の造ったものどもを。お前にとって、それらは何の役にも立たない。助けを求めて叫んでも／お前の偶像の一群はお前を救いはしない。風がそれらすべてを巻き上げ／ひと息でそれらを吹き去るであろう。わたしに身を寄せる者がこの地を嗣業とし／わたしの聖なる山を継ぐであろう。

長い道のりに疲れても／もうだめだとは言わなかったのはイエス様、一方、誰におびえ、誰を恐れて、お前は欺くのか。お前はわたしを心に留めなかったと言われるのは私たち人間なのに、主なる神はイエス様と私たち人間とを同じに見てくれています。それは将に主なる神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛され、独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るようにされたからです。

では、私たちはどうすればよいのでしょう、それは１５節から記されています。

わたしは、高く、聖なる所に住み／打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり／へりくだる霊の人に命を得させ／打ち砕かれた心の人に命を得させる。わたしは、とこしえに責めるものではない。永遠に怒りを燃やすものでもない。霊がわたしの前で弱り果てることがないように／わたしの造った命ある者が。貪欲な彼の罪をわたしは怒り／彼を打ち、怒って姿を隠した。彼は背き続け、心のままに歩んだ。わたしは彼の道を見た。わたしは彼をいやし、休ませ／慰めをもって彼を回復させよう。民のうちの嘆く人々のために

私たちは打ち砕かれて、へりくだらせられ、悔い改めて、癒され、休まされます。これらの言葉は、新約聖書でもイエス様が絶えず言い続けられている言葉です。また私たちがこの世の荒れ野の旅路を共に歩ませられる最後の時まで、これらの言葉は語り続けられます。

そして今この時を迎えた私たちも、主の御前にへりくだらせられ、悔い改めて、癒され、休まされています。このように生ける神であるイエス様は、私たちに今この時の喜びをプレゼントして下さるのです。

主なる神は旧約の昔からこのように主イエス様の救いを明らかに語っておられます。しかし私たち人間は、それに気づかず、そして頑なにあらぬ方向へと向かっています。今日の世の中の状況を見ますと、それも聖書の中に銘記されております。有名な箇所ですがルカ福音書12章19節、新約聖書132ページになります。

こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』

ある金持ちが有り余る財産を倉にしまって、自分のためにそれを計画的に消費しようとしています。どうでしょうか、このように言い換えますと、この金持ちの姿勢は、別に今日においては珍しいことではなく、多くの人達が実行していることではないでしょうか。又、次のように言えばどうでしょうか。ある人が社会人になって給料をもらうことになりました。彼は余ったお金を銀行に預けて、将来の結婚やマイホーム獲得のための資金にすることにしました。こうなると言い換えではなく、発展になりますが、この良し悪しは別にして、これは今の世での生き方の一つの常識的なモデルではあるでしょう。

しかし、イエス様の説かれるこの世の生き方は、全くこういうことではないのです。そのことは今日読まれました招きの言葉、イザヤ書５７章の旅路と比較すれば一目遼前ですが、イエス様の説かれる生き方は日々のプレゼンスにおける、へりくだり、悔い改め、癒し、休息の連続なのです。それは荒れ野における、驚き、共感、助け合い、愛の実りの豊かさを実感する道行きなのです。

イエス様はその金持ちに対して言われます。

『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

今夜、お前の命は取り上げられる、といった、イエス様の切羽詰まった物言いは何を意味するのでしょう。それは私たちが今この時、先ほどプレゼンスという言葉を用いましたが、私たちは、このプレゼンスにどちらを選ぶかという岐路に立たされているということです。もし仮に私たちが、この金持ちのような道を選んだとしたら、その後彼は、荒れ野における豊かさを増し加えることはないでしょう。

しかし心配することはありません。私たちは主イエス様と共に歩まされている限り、いやでも、荒れ野における、驚き、共感、助け合い、愛の実りの豊かさを実感する道行きのほうに向かわされるのですから。

さて、今日の聖書箇所で、パウロは教会の肉的な営みついて明らかにしてくれています。１５節で、もののやり取りと訳されている言葉は、直言すれば「会計」のことです。新しい聖書訳ではここは次のように訳されています。「私が福音の宣教の初めにマケドニアから出かけて行ったとき、会計を共にしてくれた教会は、あなたがたのほかに一つもありませんでした。」

時は、１世紀、このころ、ローマカトリック教会の組織はその片鱗もありませんでした。どちらかといえば、ローマ帝国内の各キリスト教会は家庭集会から発展した各個教会的な運営をしていたのではないでしょうか。フィリピの教会のそのような教会の一つであり、各教会は具体的にどこの教会と助け合って協力して立っていくかを模索せざるを得ない状況だったのです。そんな中、このフィリピの教会はパウロの働きを会計的に金銭的に支援していたことが知られます。

続いてパウロは贈り物に対する感謝の意を表しています。

また、テサロニケにいたときにも、あなたがたはわたしの窮乏を救おうとして、何度も物を送ってくれました。贈り物を当てにして言うわけではありません。

物を送ると書いてありますが、はたしてこの贈り物が物品であったのか、お金であったのか、はっきりとはしないようです。しかしエパフロディトが持参した贈り物とありますから、或いは物品とお金の両者であったのかも知れません。いづれにしましても

「むしろ、あなたがたの益となる豊かな実を望んでいるのです。」とパウロは言っています。この箇所は新しい聖書訳では次のように訳されています。「むしろ、あなたがたの帳簿を黒字にする実りを求めているのです。」

あなた方の帳簿を黒字にする実り、私たちはこの言葉によって私たちの豊かさが実はどこにあるのかを、身につまされて知るのではないでしょうか。このことを考えるのには、贈り物をプレゼントと言い換えた方が分かりやすいと思います。

主イエス様は先ほどのルカ福音書の箇所で「自分のために富を積んでも、神のために豊かにならない者はこのとおりだ。」と言われました。この聖句は私たちは何回も聞かされているのではないかと思います。しかしこれを実行していくことはなかなかに骨の折れることです。なぜかといいますと私たちは、この世の歩みにおいて、この金持ちのように考えてしまう誘惑に常にさらされているからです。神様抜きで、自分たちのために富を積んでいく、この道行きは一見、安全で、安泰で、守られているかのように思われますが、そうではありません。なぜならば、これでは私たちが神様の前に豊かになることが全く損なわれるからです。

あなた方の帳簿、これは神の国に至る迄損なわれることのない帳簿と考えられますが、それが黒字になる、豊かになるということは、そこに神のために、神の面前で豊かにされていくこと抜きにしては考えられないのです。この金持ちのように考えることは、自ら死によってすべてを終わらせようとする営みに他なりません。

しかし私たちの旅路は、この世の死によって終了するのではありません。それは今も生きておられる、主イエス様とともに生きていく道程です。

パウロ曰く、わたしはあらゆるものを受けており、豊かになっています。そちらからの贈り物をエパフロディトから受け取って満ち足りています。それは香ばしい香りであり、神が喜んで受けてくださるいけにえです。

パウロはフィリピの教会からのプレゼントを受けて豊かにされています。そしてそれは神のためにささげられているのです。そして、私たちの体も今ここで神様の御前にプレゼントされています。それは今ここでの喜びに満たされることです。このようにして私たちは「世界も生も死も、今起こっていることも将来起こることも。一切はあなたがたのもの、あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものなのです。」という通りにされるのです。

お祈りいたします

天に居ます私たちの父なる神様、今日は御前にこの兄弟姉妹を集められ共にあなたを礼拝賛美出来ます幸に感謝します。

あなたは、変わらない恵みをもって、生きている人と死んだ人とを守り、絶えず恵みの露を注いでくださいます。今、ここに集いました私たち神の子を祝福し、真実、平和、信仰、愛によって結び合わせてください。

この世における長い年月をあなたは守り導いてくださいます。どうか主にある喜びをますます私たちに満たし、常に感謝のうちに過ごすことが出来るようにして下さい。

今日、入院などでここに来られなかった兄弟姉妹を覚えます。どうかすべての処に居られるあなたの御手をもって、彼ら彼女らを守り、豊かな憐れみのうちに主の平和にあずからせてください。

父と聖霊と共に一体であって世々に生き支配しておられます私たちの主イエス・キリストのみ名によってお願いいたします。